測量計算・電子野帳（TS）

A-SurveyAd

Android

エース プロジェクト

2023/07

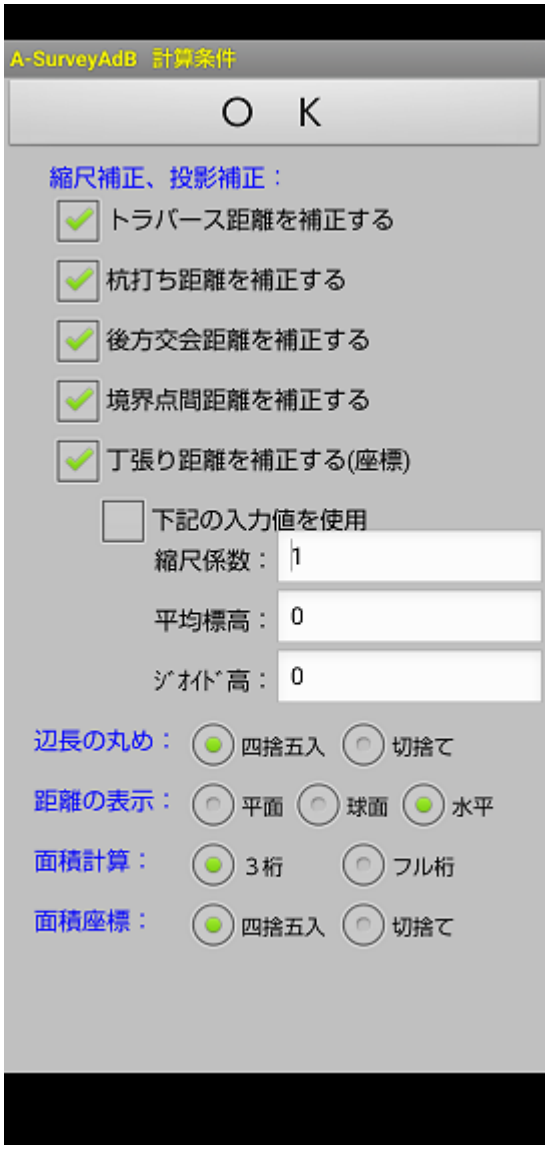
Ver4.3.6 で追加、修正された機能を説明します。

・距離の表示条件に、水平距離を追加

１、距離の表示条件に、水平距離を追加

要望がありましたので、追加しました。

現場を作成すると最初に計算条件設定してください。
この条件は、現場毎に保存されます。(設定(OK)した時点で保存されます)

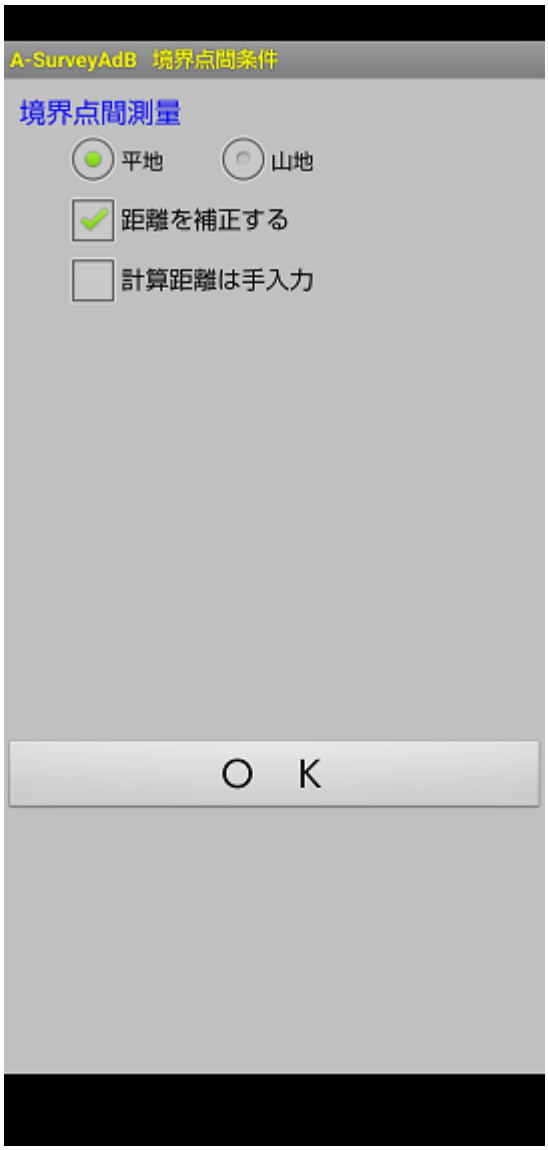


<――― 計算条件でも設定可能としました。
<――― 条件を分けました。

<――― ここに、○水平　を追加しました。

□境界点間距離を補正する

これは、下記の設定と同じものを、こちらでも設定可能としました。



直接、間接どちらの場合も、距離の値を
平面距離に計算します。
水平距離→球面距離→平面距離

□丁張距離を補正する(座標)
今までは、「杭打ち距離を補正する」で兼ねていましたが、分けました。
座標計算に使用する距離を補正します。
斜距離→水平距離→球面距離→平面距離

以下、おさらいです。
□トラバース距離を補正する
「放射トラバース」、「多角計算」で、座標計算に使用する距離を補正します。
斜距離→水平距離→球面距離→平面距離
この平面距離で座標計算します。

□杭打ち距離を補正する
杭打ち時に表示する距離を、座標から計算します。
平面距離→球面距離→水平距離
この水平距離で、杭打ちします。
杭打ちで、座標登録した場合の計算の補正も行います。
手順は、放射トラバースと同じです。

□後方交会距離を補正する
A 点、B 点の測定した距離を、補正計算し計算に使用します。
手順は、放射トラバースと同じです。

□下記の入力値を使用
縮尺係数
平均標高
ジオイド高
ここにチェックしていない場合は、縮尺係数は Y 座標から計算で求めます。
平均標高も、２点間の標高及び、IH,FH から求めます。
ジオイド高は、常にここで入力されている値を使用します。

ジオイド高計算

Android OS 4.4 以降での使用で、[GPS 座標測定]などで、ジオイド高計算を
行う場合は、gsigeo2011_ver2Ace.dat ファイルを Android の内部メモリの、
ASurvey 測量　フォルダにコピーしてください。説明書は、A-SurveyAd_344.pdf　です。

「座標点名変更・削除」にて点を選択すると、ジオイド高が計算され表示されます。
このジオイド高を、入力してください。
下記は、作業規定からですがジオイド高も計算できるので入力してください。
3 級基準点測量及び 4 級基準点測量は，基準面上の距離の計算は楕円体高に代
えて標高を用いることができる。

距離の表示　：○平面　○球面　○水平
今回の要望は、この個所です。
今までは、平面と球面だけでしたが、水平を追加しました。
杭打ちの、**平面距離→球面距離→水平距離**　と同じです。
□下記の入力値を使用　この設定が有効です。

ここの設定は、下記の処理で使用されます。
・画地の辺長をプロット画面に表示した場合（「表示条件」の□境界辺長を表示するにチェック）
・「２点間、距離方向角」
・「ST 計算」
上記で、表示される距離の値が変化します。

□杭打ち距離を補正する：チェック

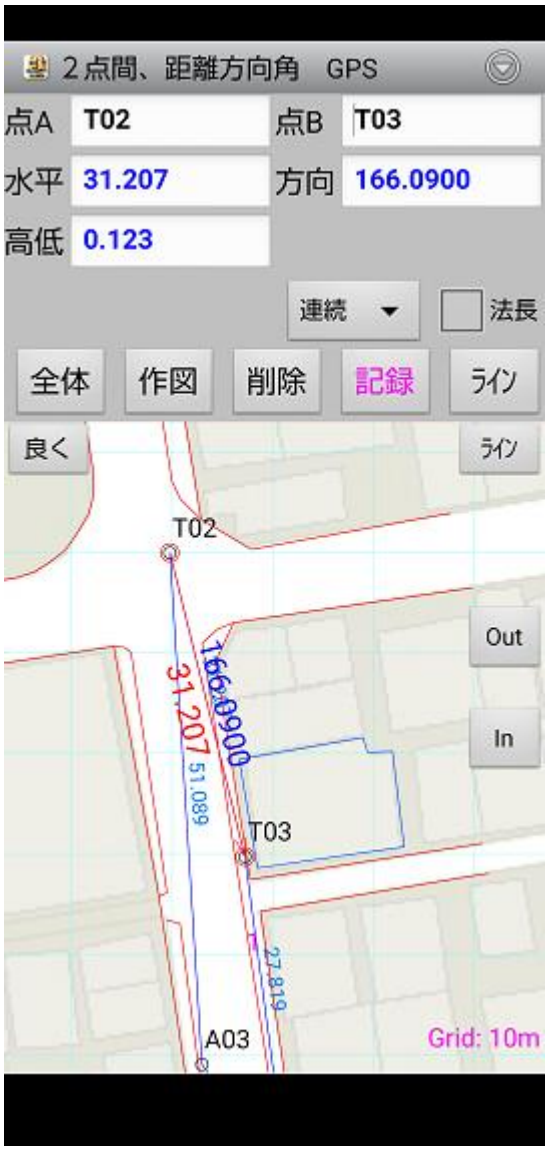
距離の表示　：　○水平

画地の辺長と、杭打ちの距離が同じ、水平距離です。

□杭打ち距離を補正する：チェック

距離の表示　：　〇平面

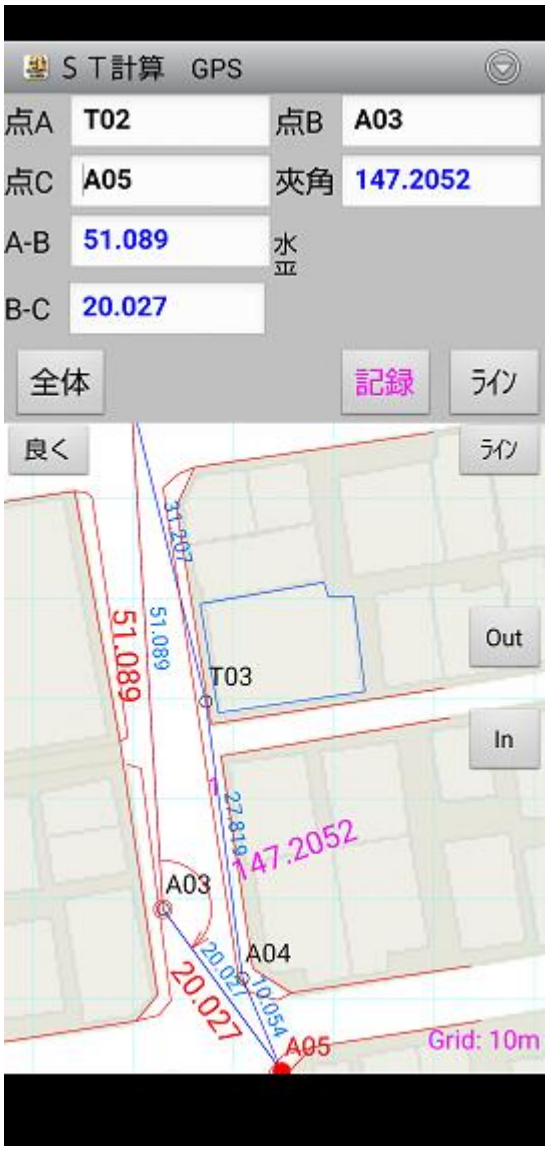
「２点間、距離方向角」



距離の表示　：　〇水平

項目名称も、変わります。
平面、球面、水平

「ST 計算」



距離の表示　：　〇水平

距離の表示　：　○水平

で、「２点間、距離方向角」で、「作図」ボタンで距離の値を
距離文字として登録できます、
「放射トラバース」の画面でも表示されています。

条件を、
距離の表示　：　〇平面
に変更すると、距離文字の値も再計算されます。
これは、おさらいでした。